

令和5年度 組織目標（実績）

所属部・局 産業経済部

【産業経済部 行動指針】

- 高付加価値化による地域産業の再生に向け、頑張る事業者を全力で支援します
- 世界に選ばれるSDGsな観光地域づくりを進めます
- 農林水産事業者の稼ぐ力を高め、選ばれる農山漁村づくりを進めます

No.	組織目標	ページ
1	観光地の高付加価値化を促進します。	1
2	観光SDGsを推進します。	1
3	観光DXを推進します。	2
4	美食のまちづくりを進めます。	2
5	企業誘致による新たな雇用の場の創出等、魅力ある働く場づくりを進めます。	3
6	サステナビリティ経営への転換に取り組む事業者を支援し、経営環境の改善を促進します。	3
7	創業や事業承継支援を進め、商いを活性化します。	3
8	農地の利用集積・流動化、生産基盤の整備などを進め、生産現場の環境を整えます。	4
9	効果的な有害鳥獣対策の実施と捕獲個体の適正な処理を行います。	4
10	農林水産業が次代へ引き継がれるよう、担い手の確保・育成を図ります。	5
11	ブランド製品の生産拡大や農産物、水産物の品質向上・ブランド化を図り、出荷額を増加します。	5
12	域内流通の促進による地産地消と域外への販路拡大を推進します。	5
13	「農林水産業プラスワンプロジェクト」の展開など、複合経営の推進により農山漁村の定住促進を図ります。	6
14	市民・事業者が安全で安心して暮らし、働ける環境基盤を整備します。	6
15	豊かな自然環境を守る適切な森林管理を推進します。	6
16	農地利用の最適化を推進します。	6

令和5年度 運営目標

運営目標		実績（3月）
<p><b>【商工観光課】</b> 宮津での観光消費単価・顧客満足度の向上を図るため、宮津市観光戦略に基づく「1 観光地の高付加価値化」「2 観光SDGs」「3 観光DX」「4 美食のまちづくり」の取組みを推進します。</p>		
1	観光地の高付加価値化を促進します。	
運営目標	<p><b>【施策】</b> 市内の観光関連施設事業者等と連携し、地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化を行うことにより、観光消費額の向上を図るとともに、観光従事者の賃金・待遇の改善等、労働環境の向上につなげる。 <b>【達成すべき指標】</b> 観光消費額：R4 84億円 → R5 109億円 <b>【指標を達成するための取組・手段等】</b> ①市内の観光関連施設事業者と連携し策定する「地域観光拠点再生計画」に基づく、宿泊施設及び観光関連施設の磨き上げ。 ②地域一体となり観光消費額の最大化を図る観光DX事業の実施。 (詳細は下記に記述)</p>	<p><b>【実績】</b> 観光消費額：R5 117億円 ○観光庁「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」の採択に向けた取組 ・R5.4.4：採択候補地域として選定。 ・R5.4.4～4.28：本採択に向け、地域計画の作成、参画希望事業者への説明会及び個別計画の作成に係る伴走支援を実施。 ・R5.4.28：地域計画申請 ・R5.5.30：地域計画採択 ・R5.6.1～：各事業者の交付申請作業を側面支援</p> <p>① 宿泊施設：27施設が参画(6施設が取り下げ) 事業費 817百万円(うち、国庫補助 458百万円) 観光施設：11施設が参画(2施設が取り下げ) 事業費 206百万円(うち、国庫補助 103百万円) ② (詳細は別項目)</p>
運営目標	<p><b>【施策】</b> 市内の各関係団体・各関連団体や海の京都DMO等と連携を強化するとともに、地域資源やICTの先端技術等の活用による魅力ある観光コンテンツの複数化により、滞在時間の延長を推進し観光客の満足度向上を図る。 <b>【達成すべき指標】</b> 体験プログラム、ツアーの内容が良かった(大変そう思う、そう思う) ：R4年度アンケート割合26% → R5年度アンケート割合35% <b>【指標を達成するための取組・手段等】</b> ①地域資源を活用した新たな滞在コンテンツの造成・商品化に対する支援を実施する。 ・上宮津地区：造成済みコンテンツの販売促進支援 ・府中地区：「股のぞき一龍万倍体験」の中心としてエリア全体の活性化 ・由良地区：造成済みコンテンツの組み合わせによるツアー商品開発 ・日置、世屋、養老地区：新規コンテンツの造成(3個程度) ②体験コンテンツをより利用しやすい環境づくりとして、「JTB Bokun(体験アクティビティ予約システム)」の活用を推進する。 ③京都観光アカデミー等と連携し、観光業界で求められるスキルや知識を習得できるセミナーへの参加を促進することなどにより、多様な観光ニーズに対応できる人材の育成を図る。</p>	<p><b>【実績】</b> アンケート割合：R5アンケート未実施 ①地域資源を活用した新たな滞在コンテンツの造成・商品化に対する支援を実施した。 ・上宮津地区：支援の実施なし(地区による取組のみ) ・府中地区：「股のぞき一龍万倍体験」を中心とした取組を実施 →令和6年1月以降を「辰年」と組み合わせるターゲットイヤーと位置付け。 →エリア全体で、一龍万倍体験の購入者に対する各店舗での割引、「食」をテーマとした「開運丼」の提供などをコンテンツとして、「一龍万倍開運キャンペーン」を、2024年1月1日から3月24日まで実施。 ・由良地区：造成済みコンテンツを含めた由良地区周遊MAPを作成 ・日置、世屋、養老地区：コンテンツ発掘に向けた地元説明会を実施(養老・日置)。コンテンツの発掘に向けた指導・助言 ②未実施 ③実績なし。観光アカデミーの研修情報を観光事業者に伝達する仕組みを検討することとしていたが未実施。</p>
2	観光SDGsを推進します。	
運営目標	<p><b>【施策】</b> GSTC TOP100の取得を目指し、日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に基づく事業者・地域一体となったインバウンド需要にも対応したサステナブルツーリズムを推進し、世界から選ばれる持続可能な観光地域を実現する。 <b>【達成すべき指標】</b> 観光入込客数：R4 2,318千人 → R5 3,205千人 外国人宿泊者数：R4 3,907人 → 54,000人 環境率先活動に参画する事業者数：30施設 <b>【指標を達成するための取組・手段等】</b> ・インバウンド受入体制の強化(多言語AIチャットbotの導入など) ・JSTS-Dに基づくツアーガイドの研修、認定制度の導入 ・食品ロス削減、脱プラ行動等の環境率先活動への観光事業者の参画促進</p>	<p><b>【実績】</b> ●観光入込客数：R5 2,763千人 ●外国人宿泊者数：R5 57,717人 ●SDGsプラットホーム参画観光事業者数：R5末 8事業者 「世界の持続可能な観光地Top100選」に選定され、「Culture&amp;Tradition(文化・伝統保全)」部門で世界3位を受賞(R6.3.6ドイツ・ベルリンで授賞式) 「藤織り」をテーマにしたストーリーが評価されたものであり、海の京都DMOを連携し「藤織り」体験を含むツアーの構築とプロモーションを推進。 ・インバウンド受入体制の強化 → 海の京都DMOと連携し、ファムツアーの実施や情報発信の強化をはじめ、観光DX事業においてGoogleMAPの情報強化を実施。 ※海の京都DMOインバウンドツアー売上実績：R5 74件 19,278,700円 ・JSTS-D(持続可能な観光ガイドライン)に基づくツアーガイドの研修、認定制度の導入 → 事業実施に向け、先進地の情報収集・取組検討</p>



令和5年度 運営目標

3	観光DXを推進します。		
運営目標	<p>①</p> <p>【施策】 リアルタイムデータを活用してタイムリーな施策の打ち出しやより良いサービスを提供し、顧客満足度を高めるとともに、リピート客の増加・客単価の向上により地域の観光消費額の向上に繋げる。</p> <p>【達成すべき指標】 観光消費額: R4 84億円 → R5 109億円</p> <p>【指標を達成するための取組・手段等】 ①宿泊データ分析システムの導入(参画宿泊施設数: R4年度0軒→R5年度30軒) ②Googleビジネスプロフィールの利用推進(参画観光施設数: R4年度0軒→R5年度150軒) ③宿泊事業者のPMS導入促進(新規 20施設)</p>		<p>【実績】 観光消費額: R5 117億円</p> <p>○観光庁「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」の採択に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R5.4.4: 採択候補地域として選定。</li> <li>・R5.4.4～4.28: 宮津市観光DX計画を策定。</li> <li>・R5.4.28: 宮津市観光DX計画を含む地域計画申請</li> <li>・R5.5.30: 地域計画採択(補助上限額がUPする地域全体のデータを取得・活用が見込める取組として認められた)</li> <li>・R5.6月～8月: 旅館組合とデータ収集システムの導入に向けた説明会及び勉強会等を複数開催。</li> <li>・R5.8.21: 観光DX業務に係る事業者選定(プロポーザル審査)を実施</li> <li>・R5.10.18: 観光DXキックオフ説明会(全観光事業者対象)を実施</li> </ul> <p>①宿泊データ分析システムの導入参画宿泊施設数: R5 26軒 ②Googleビジネスプロフィール参画観光施設数: R5 47軒 ③宿泊事業者のPMS導入件数: R5 6軒</p>
4	美食のまちづくりを進めます。		
運営目標	<p>①</p> <p>【施策】 食の質向上と高付加価値化により、食を目的に訪れる美食のまちづくりを実現する</p> <p>【達成すべき指標】 食の満足度調査スコア R3: 87→R5: 95(※アンケート調査による)</p> <p>【指標を達成するための取組・手段等】 ①大和学園との連携による新メニューの開発・情報発信(アドバイザー含む)メニュー開発数5品(R4実績 看板メニュー2品、アドバイザー派遣による開発7品(3事業者)) ②観光高付加価値化事業による「ガストロノミーツーリズム」商品の開発・提供、フェアの開催、既存店舗の魅力・認知度向上 ツアー2種類の企画販売 ③農商ビジネス商談会による地元食材の活用 商談成立件数R2年度3件→R5年度10件</p>		<p>【実績】 食の満足度調査スコア: R5未実施</p> <p>①大和学園との連携による新メニューの開発・情報発信 観光誘客促進メニュー4品、アドバイザー派遣による開発16品(3事業者) その他、宮津市内で実施する学生レストラン(ランチ5日間、ディナー2日間、総参加者224名)、や料理教室(計4回、総参加者38名)等を実施</p> <p>②大和学園による「ガストロノミーツーリズム モニターツアー」実施 ○天橋立で「股のぞき☆龍万倍」開運体験ツアー 2/14、2/17、2/19 ○丹後の旬の一刻干し作り体験と七輪焼きでの昼食 宮津ガストロノミーツアー 2/22 ○宮津の府中地区・丹後ならではの「食」「歴史」の文化をめぐると土産付きツアー 2/22 ○宮津市由良地区と京都丹後鉄道に乗りする宮津市魅力発見ツアー 3/1 ※併せて大和学園連携事業として継続的に学生が宮津市を取材し、様々な視点での魅力発信を行える特設サイト(HP)を構築。</p> <p>③宮津商工会議所主催の地元産業の振興を目的とした「みやづ産業フェスタ」を実施した。(出展事業所92社、来場者数約5,000人) 大和学園が京都市内で実施する学生レストランにおいて、宮津の産品を販売しPRした(酒呑童子、お米サイダー) ※京都府北部地域連携都市圏及び宮津商工会議所による商談会は未実施</p>
5	企業誘致による新たな雇用場の創出等、魅力ある働く場づくりを進めます。		
運営目標	<p>①</p> <p>【施策】 企業誘致による雇用機会の拡大及び地域経済の活性化を図る。</p> <p>【達成すべき指標】 企業立地件数: R4年度2件→R5年度2件</p> <p>【指標を達成するための取組・手段等】 ①関係機関と連携し、脱炭素産業の集積に向けた誘致活動を実施する。 ②本市の特性を活かし観光分野の企業の立地に向けた誘致活動を実施する。 ③補助制度の改正やワンストップ窓口による関係機関との調整等、立地企業へのサポートを強化する。</p>		<p>【指標】 企業立地件数: 1件(金下建設 金ば銀ば)</p> <p>【主な取組】</p> <p>①脱炭素産業の集積に向けた活動 ・サステナブルパーク企業誘致推進協議会の開催(5月) 参加企業17社 ・サステナブルパーク用地紹介 12社</p> <p>②企業訪問 131社 325回 (R4 83社 249回)</p> <p>③観光分野の誘致活動 ・事業提案企業との交渉 13社</p> <p>④企業へのサポート ・補助対象企業に補助制度の紹介 7社 ・地元説明の開催(8月)をサポート 1社</p>

令和5年度 運営目標

6	サステナビリティ経営への転換に取り組む事業者を支援し、経営環境の改善を促進します。		
運営目標	① 【施策】 人手不足や物価高騰を始めとする事業者の経営課題解消に向け、商工会議所、ハローワーク、近隣市町等、関係機関・団体と連携し、求人企業と求職者のマッチングを推進するとともに事業者の生産性向上等の取組を応援し、雇用・労働環境の向上を図る。 【達成すべき指標】 ① 合同企業説明会内定者数：R元年度13人→R5年度30人 【指標を達成するための取組・手段等】 ① 北部7市町連携事業及び京都労働局との雇用対策協定や京都府雇用施策等との連携による各種雇用確保策を実施する。 ② 関係機関と連携し、働き方改革の普及啓発、就業者の育成支援を実施する。 ③ 事業者向け物価高騰対策を通じ、経営の合理化、生産性の向上等に取組む事業者支援を実施する。		【指標】合同企業説明会内定者数：R5年度33人（うち宮津市内の事業所への内定者数：17人） ・海の京都Work&Lifeフェア（北部7市町連携事業） 内定者数9人（5月開催 参加企業112社、参加者88人） ・たんご就職フェア（京都労働局等主催、宮津雇用対策連絡会議協力）内定者数9人（8月開催 参加企業45社、参加者66人） ・海の京都 宮津就職フェア 内定者数15人（9月開催 参加企業25社、参加者36人、2月開催 参加企業23社、参加者49人） ・宮津市原油価格・物価高騰等対策補助金の実施（6月補正） <交付実績>省エネ機器補助：89件、DX化補助19件 地元産品商品化支援1件
7	創業や事業承継支援を進め、商いを活性化します。		
運営目標	① 【施策】 空き店舗の活用も含めた創業・第二創業等の経済活動を促進するとともに、商工会議所とも連携しながら市内事業所の経営支援や若手経営者・起業を志す人材を育成し、市内産業の活性化を図る。 【達成すべき指標】 ① 創業・第二創業件数：R2年度未実施→R5年度10件 【指標を達成するための取組・手段等】 ① 新たな起業にチャレンジする人材を育成するため、未来天橋塾を開催する。 ② 創業等支援補助金等の交付により、創業や事業承継等を支援する。 ③ 未来天橋塾3年間の実施成果を検証し、第二ステージに向けた仕組みづくりを行う。		【指標】創業・第二創業件数：R5年度5件 ① 未来天橋塾開催（全7回） 塾生12名 6月開講後、それぞれの事業プランを10/11に立案・発表し、研修を修了 ② 創業等支援補助金・チャレンジおうえん補助金 採択件数9事業者 → 交付決定者 6事業者（3事業者は取り下げ） <交付決定者の内訳> 飲食関係（製造販売・飲食店） 3事業者、ゲストハウス 1事業者、その他 2事業者（化粧品販売、マッサージ） ③ 講師と共催者（北部信用金庫、宮津商工会議所）と議論し、令和6年度はより実践的にステップアップした内容の塾を開講する。
運営目標	② 【施策】 宿泊、飲食施設の経営や農林漁業体験の提供など農林水産業と並行して行う複合経営の推進と定着 【達成すべき指標】 ・R5年度半農半Xインターンシップ参加者数：20人 ・体験農園開園に向けた試行取組を支援：1か所以上【農委連携】 【指標を実現するための取組・手段等】 ・観光施策と連携しながら農業体験プログラムを実施する「半農半Xインターンシップ」により、農業実習、地域との交流などを通じた担い手を確保・育成 ・体験農園の開園に向け、農業委員等と連携し、地域の気運醸成や農園の運営体制の構築などを支援 ・地域での新たな受入体制の構築に向けた取組を支援		【指標】半農半Xインターンシップ参加者数：R5 4地区11名の受入れ ○半農半Xインターンシップ 吉津地区、矢原・脇の浜地区、日ヶ谷地区、養老地区で実施。※同地区で受入態勢の構築取組を実施。 ○体験農園 ⇒ 府中西部で検討中

令和5年度 運営目標

【農林水産課】						実績（3月）	
8	農地の利用集積・流動化、生産基盤の整備などを進め、生産現場の環境を整えます。						
運営目標	<p>① 【施策】 集落において京力農場プランの策定を進め、農地の利用集積や流動化を促進</p> <p>【達成すべき指標】 ・京力農場プランの策定 R4年度末59集落(79%) →R5年度末69集落(92%)【農委連携】 ・地域計画の策定 →R5年度末10計画(18集落)【農委連携】</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】 ・農業委員会委員が集落で積極的に話し合い活動を展開できるよう支援 ・農地の棚卸を推進し、守るべき農地を明確にし、地域農業の将来のあり方を定め、農地ごと利用者を明確化する京力農場プランの策定を終え、地域計画の策定にシフトする。</p>			<p>○京力農場プラン未策定地域へ話し合いを実施し、R6年度の地域計画策定までにプラン策定可能な集落は、全てプランを策定 →R5年度末67集落(89%)【農委連携】</p> <p>○守るべき農地の明確化を行うため 農地の棚卸① 農振農用地の見直しを各集落へ依頼し、編入・除外の意向を整理 → 全ての対象集落へ照会し、意向を確認 ※R6年度の策定を目指す。</p> <p>農地の棚卸② 非農地判断の実施【農委連携】 → 4集落(上世屋、日ヶ谷、吉津、日置)で計5,984筆、184haを非農地化 農地の棚卸③ 地域計画策定のため、現況地図(耕作者地図)の作成を各集落へ依頼し、これを踏まえた話し合いを45集落で開始</p>			
運営目標	<p>② 【施策】 農道、農業用水路などの農業生産基盤を整備</p> <p>【達成すべき指標】 R5年度整備完了箇所数:R4年度1箇所 → R5年度7箇所</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】 施工箇所の優先順位付けを行い、円滑に地元調整を行いながら、早期に着工、完了</p>			<p>○施工完了箇所 R4繰越 須津(用水路)L=7.8m 196,900円 計 1箇所</p> <p>○施工完了箇所 R5現年 長江(用排水路改修)L=47.4m 605,000円</p> <p>日置上(排水路)L=24.5m 561,000円 計 2箇所 合計 3箇所 (3月末に完了)</p>			
9	効果的な有害鳥獣対策の実施と捕獲個体の適正な処理を行います。						
運営目標	<p>① 【施策】 ・有害鳥獣の防除・防護・生息環境管理による農作物被害の防止 ・有害鳥獣処理施設に係る適正かつ安定した稼働</p> <p>【達成すべき指標】 ・有害鳥獣被害金額:R4年度5,746千円→R5年度5,171千円(R7年度4,022千円) ・有害鳥獣処理施設の適正かつ、中長期的な安定稼働</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】 ・防除:猟友会への駆除委託/担い手育成支援/ジビエ活用の推進 ・防護:防護柵の設置支援/防護技術向上の研修会等の開催 ・生息環境管理:集落ぐるみの取組支援 ・有害鳥獣処理施設:適正な運営/中長期的な施設安定稼働に向けた地域との話し合い ・有害鳥獣対策の推進のための猟友会等との勉強会の開催</p>			<p>○有害鳥獣被害金額:R5年度 10,003千円(前年比74.1%増)</p> <p>○有害駆除・処分 ・捕獲状況 1,056頭(前年比54.4%増) [イノシシ281頭(同295.8%増)、シカ619頭(同20.4%増)、クマ10頭(同増減なし)、小動物その他146頭(同64.0%増)]</p> <p>・処理状況 市減容化処理施設:16.9t、市外処理:6.2t(猪名川動物霊園1,246kg、三重中央開発(株)2,020kg、(株)アートキューブ2,963kg)</p> <p>○防護柵等の設置状況 ・防護柵整備 9地区13.9km(事業費19,937千円) ※10年間(H26~R5)総延長113.5km</p> <p>○ジビエ活用の促進 ・有害期(4月~10月)のジビエ活用実績 シカ186頭(前年比86%増)</p>			



10	農林水産業が次代へ引き継がれるよう、担い手の確保・育成を図ります。	   	
運営目標	①	<p>【施策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業時における生活支援や技術習得への支援による新規就農者及び新規就漁者の担い手を確保</li> <li>・環境保全に取り組む事業者を支援</li> </ul> <p>【達成すべき指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者及び新規就漁者：R4年度3名 → R5年度3名</li> <li>・就農計画の参考とするブランド産品等の経営指標の作成 → 2品目</li> <li>・環境負荷低減事業活動に取り組む認定事業者 → R5年度25人以上</li> </ul> <p>【指標を実現するための取組・手段等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営開始資金の活用やサポートチームによる営農指導</li> <li>・集落における担い手受入環境の整備支援</li> <li>・半農半Xインターンシップの実施(再掲)</li> <li>・海の民学舎の共同運営による担い手の確保・育成</li> <li>・就業時における課題抽出と宮津市への就業支援施策の検討(新規就農者・就漁者等及びその配偶者、農業大学校・林業大学校・海の民学舎卒業生等からヒアリングを実施)</li> <li>・認定農業者協議会で有機栽培等の勉強会を開催。知識の獲得と意識醸成を支援</li> <li>・外部人材の活用による担い手確保スキームの検討</li> </ul>	<p>○農業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者4名(うち夫婦1組)を新たに認定</li> <li>・13名(うち夫婦1組)に次世代人材投資資金・経営開始資金を交付。サポートチームによる指導を実施。</li> <li>・認定農業者協議会を受け皿に、環境にやさしい農業の普及取組を支援 ※R5末の本市認定事業者2人(みどり戦略とみどり認定、有機農産物等のマーケットの動向、農業収入を上げる戦略などの研修会を支援)</li> <li>・新たな担い手受入体制構築支援：4地域の担い手受け入れ体制の構築取組を支援(矢原・脇の浜地区、吉津地区、養老地区、日ヶ谷地区)</li> <li>・前述4地区で半農半Xインターンシップを実施(参加者11名)</li> </ul> <p>○漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海の民学舎9期生2名が1年目研修(座学)を実施。8期生2名が2年目研修(現場)を終え修了し、うち1名が栗田地区にて独立型漁業に就業。</li> </ul>
11	ブランド産品の生産拡大や農産物、水産物の品質向上・ブランド化を図り、出荷額を増加します。	   	
運営目標	①	<p>【施策】</p> <p>ブランド産品・特産品の生産拡大と品質の向上(「やまのいも」、「オリーブ」及び育成水産物等の出荷額を増加。新たに「天橋立しょうが」の生産を促進)</p> <p>【達成すべき指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「やまのいも」：出荷額の増加 R4年度6,800千円 → R5年度7,200千円</li> <li>・育成水産物等：出荷額の増加 R4年度73,523千円 → R5年度76,000千円</li> <li>・「天橋立しょうが」生産者数：R5年度8人 → R6年度10人</li> <li>・「オリーブ」：地域団体商標登録(ブランド化)に向けたNPO法人の設立</li> </ul> <p>【指標を実現するための取組・手段等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産拡大及び品質向上へ向けた研修の取組を支援</li> <li>・「オリーブ」：地域団体商標の管理組織の法人化を支援(R7を目途に商標出願)</li> </ul>	<p>○「やまのいも」 R5年度出荷額 7,127千円(R4比4.8%増) ※経営指標、栽培指針を更新</p> <p>○育成水産物等 R5年度出荷額 40,860千円(※R6.5時点の速報値)</p> <p>○「天橋立しょうが」 R5生産者 8人 ※経営指標を作成、栽培指針を更新</p> <p>○「オリーブ」 研修会2回実施。法人化・地域団体商標の勉強会や法人化の素案を検討</p>
12	域内流通の促進による地産地消と域外への販路拡大を推進します。	   	
運営目標	①	<p>【施策】</p> <p>地元農産物の販売力強化や市内観光関連施設等への供給など域内流通の促進による地産地消を行うとともに、都市部等への販路拡大による地産外販を推進</p> <p>【達成すべき指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まごころ市組合の売上：R4年度81,400千円 → R5年度85,000千円</li> </ul> <p>【指標を実現するための取組・手段等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元産志向の旅館等をターゲットに地元産野菜の取引の定着化</li> <li>・生産者と卸売事業者間の流通の仕組みづくりを推進</li> <li>・農産物集荷便の運用、ふるさと納税返礼品など野菜セットの販売、出張まごころ市などの継続実施</li> <li>・域外向け販路拡大の拠点整備の検討</li> </ul>	<p>○まごころ市組合の売上 74,913千円(R4年度比△8.0%、R3年度比△0.02%) (※R4年度は旅行クーポン券利用が売り上げに好影響)</p> <p>○丹海観光船による集荷便利用回数 83回</p> <p>○市外農産物直売所への共同出荷の説明会、市内宿泊施設等への地元農産物の供給に係る意見交換会の実施</p>

13	「農林水産業プラスワンプロジェクト」の展開など、複合経営の推進により農山漁村の定住促進を図ります。	   	
運営目標	<p>【施策】          宿泊、飲食施設の経営や農林漁業体験の提供など農林水産業と並行して行う複合経営の推進と定着</p> <p>【達成すべき指標】          ・R5年度半農半Xインターンシップ参加者数:20人          ・体験農園開園に向けた試行取組を支援:1か所以上【農委連携】</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】          ・観光施策と連携しながら農業体験プログラムを実施する「半農半Xインターンシップ」により、農業実習、地域との交流などを通じた担い手を確保・育成          ・体験農園の開園に向け、農業委員等と連携し、地域の気運醸成や農園の運営体制の構築などを支援          ・地域での新たな受入体制の構築に向けた取組を支援</p>	<p>○半農半Xインターンシップ 4地区11名の受入れ(吉津地区3名、矢原・脇の浜地区3名、日ヶ谷地区3名、養老地区2名)          ※同地区で受入態勢の構築取組を実施。</p> <p>○体験農園 ⇒ 府中西部で検討中</p>	
14	市民・事業者が安全で安心して暮らし、働ける環境基盤を整備します。	    	
運営目標	<p>【施策】          沿岸地域の安全安心を確保する環境整備</p> <p>【達成すべき指標】          海岸保全施設の令和5年度計画分を完了</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】          海岸保全施設整備事業について地元調整を円滑に行うとともに、工事施工業者及び施工監理業者と綿密に調整することにより、工事を進捗</p>	<p>○令和5年度 L=60m          ・令和5年度の出来高 延長60m分の方塊ブロック54個の製作完了          ・海中据付については、R6へ繰越。完了予定 R6.7.31</p> <p>■小田宿野地区 ・全体計画 3基 L=230m          ・実施期間 令和4年度から令和8年度まで</p>	
15	豊かな自然環境を守る適切な森林管理を推進します。	    	
運営目標	<p>【施策】          森林の持つ多面的機能の維持・発揮のための適切な森林管理</p> <p>【達成すべき指標】          モデル区での取組を実施し手法の確立と長期計画の作成</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】          モデル区での地権者調整を円滑に行うとともに、有識者及び委託業者と連携し、経営管理権集積計画を策定</p>	<p>○令和5年度 モデル区:新宮地区で実施          ・業務内容 ①林業経営の適否判断用基礎資料の収集          ②森林境界の明確化業務(ドローン空撮、画像解析等)          ③経営管理権集積計画策定案を作成          ステップ②(経営管理権集積計画策定)までの手法を確立した。</p> <p>■当該事業の対象森林面積(私有林/スギ・ヒノキ等の人工林)          ・市内全域 1,400ha</p>	
16	農地利用の最適化を推進します。	   	
運営目標	<p>【施策】          ①遊休農地の発生防止・解消          ②担い手への農地利用の集積・集約化の推進          ③新規就農の促進・農業関係人口の増加</p> <p>【達成すべき指標】          ①非農地判断の実施 4年度1集落→5年度4集落</p> <p>②京力農場プランの策定・実質化を推進(再掲) →5年度※指標8-①          ③地域計画の策定(再掲) →5年度※指標8-①          ④若手農業者の集い開催 R4年度2回 →R5年度2回          ⑤体験農園の検討(再掲) →5年度※指標13-①</p> <p>【指標を実現するための取組・手段等】          ・各集落で農地の棚卸(非農地判断、計画等の策定)が円滑に進むよう支援          ・令和5年7月の改選を迎え、新任となる委員を含め、農業委員会委員が集落で積極的に話し合い活動を展開できるよう支援          ・農地を効率的に守る体制・組織の見直しを積極的に支援          ・多様な人材が農業に関われる受皿づくりを集落・関係機関との連携</p>	<p>①非農地判断 ⇒ 7月の農地利用状況調査で各集落の協力員に非農地判断について説明し、対応を依頼し、9月以降に取りまとめ          非農地判断の実施 上述(指標8-①)のとおり          →R5のB判定農地(荒廃農地)3,789筆、104ha※例年の6倍</p> <p>②京力農場プラン ⇒ 上述(指標8-①)のとおり          ③地域計画 ⇒ 上述(指標8-①)のとおり          ④若手農業者の集い開催 ⇒R5年度1回 ※前年度3月開催後、12月に1回開催、農委の視察研修の受入れや集落の話合いが続き未開催          ⑤体験農園の検討 ⇒ 上述(指標13-①)のとおり          ⑥その他          ・7月の委員改選後、研修会等を開催し、委員の職務や市内各集落の情報を共有          ・全委員が本年度の取組目標・活動計画を作成          ・7月以降、毎月、農地利用最適化推進会議を開催          ・11月から2月にかけて5つの府外農業委員会及び都道府県の視察研修を受入れ          ・日ヶ谷地区の15日会は27回の話し合いにより、就農を希望する移住者を確保、加工施設の経営も継承者を確保          ※人口減少が著しい集落では農業分野だけの話し合いに限界があり、集落の存続がテーマに。          ・小寺で営農型太陽光発電事業の関係者向け説明会を2回開催、関係者の合意形成など事業を継続検討中</p>	